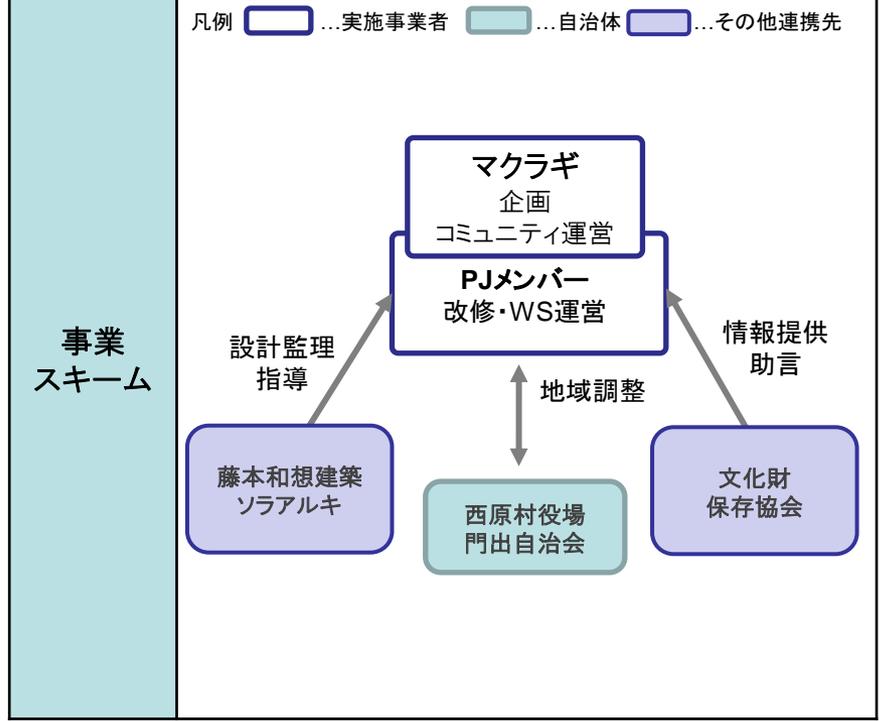


事業概要 山林地域の空き家を、村内の移住者や子育て世代とともに活用方法の検討と改修作業をおこない、移住相談窓口や子育てサポートの機能をもった地域の交流拠点に創りかえることで、人口減少が深刻な山林地域に新たな人の流れをつくる。

事業者情報

団体名	マクラギ
所在地	熊本県阿蘇郡西原村鳥子1218-8
設立時期	令和5年2月
団体HP	https://preview.studio.site/live/moWv3xjD06

活動地域 熊本県西原村



取組内容及び成果

1 | プロジェクトメンバーとなる移住者や子育て世帯のコミュニティの構成

取組内容

地域住民で事業の中心となって活動を進めるメンバーでPJを結成。子育て世代や移住者が抱える悩みや暮らしやすい地域の姿を共有したり、地域に長く住む地元のキーマンにヒアリングをおこなった。また本プロジェクトの空き家の改修について地域に長く住む地元住民に説明すると、地元住民から手仕事や道具の使い方を教わる会の開催へと発展した。



- 子育て世帯・移住者意見交換会 3回実施
- ネイティブ住民へのヒアリング 2回実施
- ネイティブ住民から教わる会（農業体験・道具の使い方）2回実施



成果

PJメンバーに10人が集まり、そのうち7人が子育て世代、3人が移住者。これらの機会を通じて、これまで同じ地域に住みながら交流のなかった子育て世帯同士や、移住者と地元住民との交流が活発になった。子育て世帯の悩みとしては、地域での子供の遊び場所や遊ばせ方が分からない、地域の悩みとしては、地域行事や自治組織の若手不足が深刻ということがお互いにわかり、それぞれが無理なくかわりあっていく新しい方法を見つけていこうという意識を共有することができた。また改修していく空き家が子どもの遊び場になったり、若手や移住者が地域を知る窓口として活用していく将来像をイメージすることができた。



取組内容及び成果

2 | PJメンバーによる空き家の改修

取組内容

10回の作業日を設け、5人のPJメンバーが参加。

- ・空き家まわりの藪の整備
- ・家屋内の残置物の撤去
- ・傷んだ内装材の解体・処分

成果

空き家を覆っていた藪を一掃し広い庭のスペースが蘇った。家屋に日が当たるようになり、湿気等による痛みを軽減できるようになった。

地域の方からも藪が無くなったことで、景観がよくなった、害虫・害獣の心配が減ったという声をいただいた。

内装材は雨漏りと白アリで傷んでいる箇所が多くみられた。メンバー自身が解体作業に入ることで、家屋の構造を理解することにつながり、安全性の確保のために修繕が必要な箇所が明確になった。また、今後シロアリや湿気対策のために、改修段階でできる工夫を工務店さんなどに教わりながら、取り入れていきたい。

また、子供を持つPJメンバーが作業に入る際に、地域の方が子どもを預かってくれたり、トイレやお昼休憩で自宅を使わせてくれる方が出てきたりと、改修の段階から地域の方々がいるんな形がかかわるようになってきた。



3 | ワークショップの開催

取組内容

- 10/21 あれなない庭のつくり方(藪の整備、庭木の剪定)
- 11/23 外回りの設計ディスカッション(みんなが使いたくなる工夫)
- 2/10 耐震診断と補強工事(予定)
- 2/17 みんなで間取りを考えよう(予定)

成果

2回のワークショップを行い、13人の参加者に空き家の問題提起をおこないながら、活用について意見を出し合い、作業を進めた。村外の参加者や子ども連れの参加者も多く、改修の段階から地域に人の流れを生み出す1歩となった。

2月中に残り2回のワークショップを開催



4 | 門出地域の歴史の掘り起こし

取組内容

古くから商店を営む住民を訪問したり、高齢者が集うサロンに出向き、現在の高齢者が覚えている地域の風景や伝承される地域の歴史について、聞き取り調査をおこなった。また地域内のお寺や神社に収蔵されている資料も見せてもらうことができた。

成果

門出地域が西原村の中でも面白い歴史が蓄積されていることが明らかになるとともに、高齢者から話を伺う中で「またこんな景色や活気がよみがえったら、。」という声も聞かれ、今後の活用していきたい地域資源の掘り起こしとなった。

